

## 2025 年度親善大使レポート

氏名：嶋原実咲

留学先：ドイツ、クレーフェ

2025 年 9 月からドイツのラインワール応用科学大学に 1 年間交換留学をしています。本レポートでは、ドイツの魅力と留学先での活動、そして埼玉親善大使としての活動について紹介させていただきます。

### 1. ドイツの魅力

EF Education First による英語を第二言語とする国の間での英語能力指数ランキング 2025 年版においてドイツは 4 位であることから分かる通り、ほぼみんな英語が話せるためドイツ語 A1 の私でも不自由を感じることはありませんでした。観光地はもちろん、私が住んでいた人口が桜区よりも少ない田舎の市でも英語（と若干のドイツ語）で 1 年暮らせたため、英語ができれば言語面は全く問題ありません。

日本は 7 割が山地、3 割が平地と言われていますがドイツはその逆で 7 割が平地で 3 割が山地と言われています。自然も近くにあるため、最初来たときは北海道っぽいと感じました。毎週日曜日はスーパーやドラックストアなどを含めて、チェーンのレストラン以外はすべて休業のため近くの森や家の庭で楽しんでいるドイツ人をよく見かけて、せかせかしないで時の流れを楽しんでいるようでした。そんな土地で育つ牛のミルクを使った乳製品はご想像の通り、絶品です！すでにあの濃いドイツのミルクが恋しいです…基本物価は日本の 2 倍でしたが、乳製品やパン、ビールは日本と同じ or 少し安いです。

また、日本と同じようにドイツは自動車大国です。日本では高級車扱いのメルセデス・ベンツやポルシェ、アウディ、BMW を毎日何十台も見かけますし、なんとバスまでベンツなのは驚きました。

### 2. 留学先での活動

Sustainable Tourism に所属し、持続可能な観光の概念や観光地マネジメント、自然地理学と関連した観光の実例などについて学びました。その中でも特に印象に残ったのが「Basics of Sustainable Tourism」の講義です。これまで私は、持続可能な観光とは環境・社会・経済の三つの側面のバランスを保ちながら観光を発展させていくことだと考えていましたが、講義を通して、それだけでは十分ではなく、観光そのものの経営・運営体制も持続可能なものである必要があることを学びました。特に重要だと感じたのが、地域住民の主体的な参加です。外部の行政や企業、観光団体などが一方的に観光開発を進めるのではなく、初期段階から地域住民と積極的に意見交換を行い、最終的には地域住民自身が観光の運営に主体的に関われるよう支援

することが重要です。この考え方は今後の日本の地方観光を考える上でも重要な視点になると感じました。

休日にはよく旅行に行き、長期休みにはホームステイやファームステイをしました。結局 21 か国回りましたが、日本のような街並みや文化をもつ国はもちろんなく、特に観光名所がなくとも私たちにとっては当たり前の路地やスーパーなど日常生活が、海外の人からすると魅力になると確信しました。今後はどのようにこの魅力を発信していくかがキーとなり、いかに SNS を駆使して遠く離れた地にいるひと（潜在的な観光客）にアピールできるかが重要になるでしょう。

### 3. 埼玉親善大使としての活動

観光学部であることからそれぞれの国の話を取り上げることが比較的多く、その際に埼玉の話をしました。それ以外にも日常会話で日本のどこから来たのかの話になった際には、私の地元に加えて埼玉についても話しました。具体的には地理関係や気候、有名な食材、工芸品などを説明し、総工会の際に頂いたパンフレットをさんしょうしました。正直、埼玉の認知度は低かったですが、私が埼玉について布教し続けたことで少なくとも私の周りの友達は埼玉についての知識は豊富にあることは確かです。また、味覚からも埼玉の魅力を伝えました。というのも、日本から狭山茶のティーバッグを持って行きました。Tea は良く飲んでも緑茶はそこまで飲まない私の友達でも、「甘くなくて意外とおいしい」、「思ったより飲みやすい」、といったポジティブな声が聞かれました。総合的に、「知らなかったけど東京に近いなら行ってみたい。」という声が聞けたので埼玉の魅力を一人でも多くの人に知っていただけたと実感しています。

